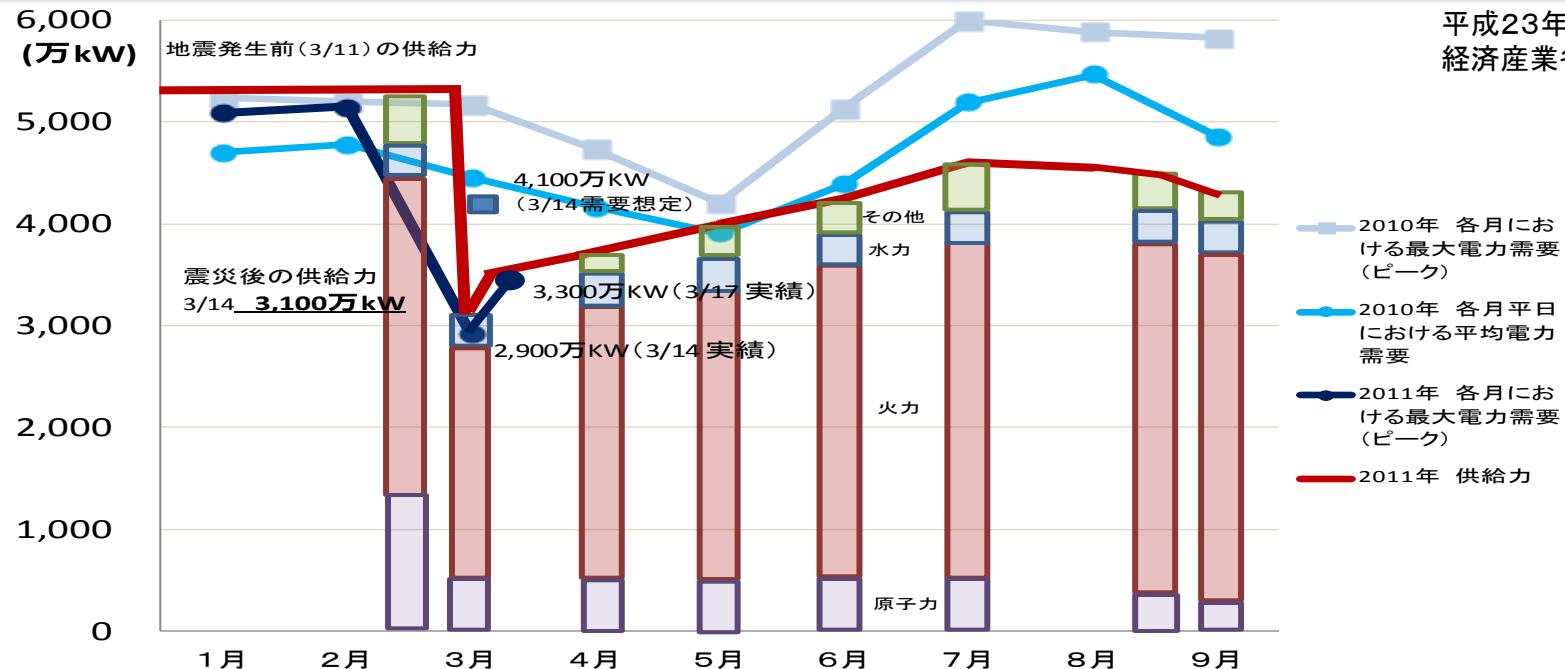


# 東京電力管内における当面の需給見通し

平成23年3月  
経済産業省



## <当面の需要見通しのポイント>

- 本年のピーク時需要は、節電意識の浸透等により減少が見込まれるもの、最大ピークとして約5,500万kWを想定。

〔昨年は気温が著しく高かったこともあり、最大ピークは約6,000万kW(7月23日)〕

## <当面の供給見通しのポイント>

- ①被災した火力のできる限りの復旧、②定期検査中の火力の立ち上げ、③長期停止中の火力もできる限り立ち上げ、④連系線を通じた融通の活用の方針で供給力の確保に尽力
- この結果、夏の時点で4,500万kW前後の供給力が見込まれる。  
(ただし、8月には、柏崎刈羽原子力1号、7号が定期検査入りのため減少が見込まれる)  
(注)供給力としては、揚水(通常は約200万kW)を除く。また、他社との融通や天候等により変動があり得る。
- さらに、①被災した火力の更なる復旧、②ガスタービン等緊急設置電源の新設、③自家発からの電力の購入などにより上積みを目指す。

- ・本年夏の需給ギャップは、現時点では最大ピーク時に1,000万kW程度となるおそれがあり<sup>(注)</sup>、今後数ヶ月であらゆる手段を活用して供給力の上積みに努める。  
(注)昨年並みの需要ピーク(6,000万kW)を想定した場合には約1,500万kWとなる。
- ・供給力不足に対応するため計画停電は当面継続せざるを得ないが、可能な限り発動を抑えるため、需要の構造も抜本的に変革する必要。